

地域情報

イチゴの産地強化に向けた取り組み

(一社) 熊本県野菜振興協会八代支部

八代地域では、イチゴが239戸、97ha（2015農業センサス）で栽培され、全国的な面積減少傾向の中で、産地の規模を維持しています。一方で、生産者の高齢化や労働力不足は年々深刻化しており、産地維持の為に、イチゴの作業の軽労化や省力化対策が求められていました。

こうした状況の中で、平成31年4月に、JAやつしろは、氷川町に「JAやつしろいちごパッケージセンター選果施設」の拡充整備を行いました。

今回の整備は、新たな予冷施設の整備や選果ラインの増設（3基→6基）により1日当たりのパック処理量が1.2万パック（従来の2.5倍）に拡充し、イチゴ産地の維持、発展に大きく貢献するものと考えています。

今後、パッケージセンターを含む産地の労働力確保が課題として残るため、野菜振興協会八代支部では関係機関と連携しながら労働力確保の課題解決に向け、検討を進めていきたいと考えています。



パッケージセンター完成式典



試運転の状況